

点字楽譜の普及に無限の仕事を ——点譜連が社会貢献者表彰を受賞

点字楽譜の普及や利用促進のために活動をしている点字楽譜利用連絡会（点譜連、和波孝禧代表）が、第54回社会貢献者表彰を受賞した。公益財団法人 社会貢献支援財団（安倍昭恵会長）が「社会の各分野で顕著な功績を挙げながら、社会的に報われる機会の少ない方を対象に表彰する」もので、今回39件が表彰された内の一つ。8月24日、東京・内幸町の帝国ホテルで表彰式典と祝賀会が行なわれた。 （本誌）

共通の財産

社会貢献支援財団は、1971年の設立以来、社会貢献者表彰を行なっていて、49年間の表彰件数は12,499件にも及ぶ。同財団は、公益財団法人 日本財団の助成を受けて活動しており、受賞者には「日本財団賞」として副賞50万円も贈られる。

点譜連は2005年に発足し、現在は主な楽譜点訳グループ19団体、点字図書館など11施設と、個人ユーザーが加入している。

点字楽譜は、視覚障害のある音楽家の演奏活動のみならず、指導や研究にも重要な役割を果たすが、日本では、個人の依頼に応えるかたちで、主にボランティアグループによって製作されている。そこには点字だけでなく、音楽や楽譜に関する知識、さらには楽器ごとに異なる表記の工夫も求められる。多くの時間と労力がかかっている貴重な点字楽譜を、個人の所有物に留めず、点字楽譜ユーザーの共通の財産として保存し、必要としている人が容易に利用できるシステムを作ることが、点譜連の